

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT 活用の実践

U21C214J 込山 翼 (M2)
新潟大学附属長岡小学校

GIGA スクール構想が動き出してから 2 年。

GIGA スクール構想は 2019 年に文部科学省から提唱されたもので、現状の学校教育実践の在り方を大きく変える可能性のあるものである。しかし、多くの教職員はこの推進に対して具体的にどのような方法で対応していいかわからないのが現状である。そのため、学校現場では、ICT が授業に日常化されるまで、まだまだ時間がかかる様相が見られる。また、「ICT を活用し授業を進める教諭」と「ICT を活用せず授業を進める教諭」の二極化の様相も見られつつある。この教職員の二極化により、「ICT を活用するクラスの児童」と「ICT を活用しないクラスの児童」の情報活用能力に差を生み出し、教員が作り出す子供の二極化が傾向も見られる。

そこで、本研究は G I G A スクール構想実現のための校内組織マネジメントについての在り方を探ることを目的とした。授業における ICT 機器の活用や校務の軽減、学校における ICT マネジメントを推進するために、在籍校において「GIGA 推進チーム」を立ち上げた。これは、GIGA スクールコーディネーターを設置し、

「①授業研修部門 ②情報発信部門 ③情報モラル教育部門」

の 3 つのカテゴリーに分け、校内の ICT 活用を円滑に進めることを意図した推進基盤体制となる。今までのように情報主任がすべてを行うのではなく各カテゴリーの情報部員が責任者として計画を進めていくことで一極集中型から校務分散型にシフトした。教員は異動を伴うため、主任が異動すると次年度の活動に大きく影響を与える側面も多くあった。校務分散型にシフトすることで、複数人体制での活動を組織できるため、次年度の活動への大幅な影響もない。

この先の学校教育の中核となっていく ICT 教育が、教育現場に根付くものとなるように研究を進めていきたい。

「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICT活用の実践

在籍番号 U21C214J 込山 翼

校内でのタブレット活用を推進するため在籍校において「GIGA推進チーム」を立ち上げた。これは、GIGAスクールコーディネーターを設置し、「①授業研修 ②情報発信 ③情報モラル教育」の3つのカテゴリーに分け、校内のICT活用を円滑に進めることを意図した推進基盤体制づくりである。各カテゴリーの情報部員が責任者として計画を進めていくことで一極集中型から校務分散型にシフトしていくことができる。ICT活用を円滑に進めるためのマネジメント方法を探る。

GIGAスクール構想が掲げられタブレットが来たけど活用方法がわからない…

使ってみたものの、少し使えば活用になるからいいでしょ？私にはあまり使わなくても…

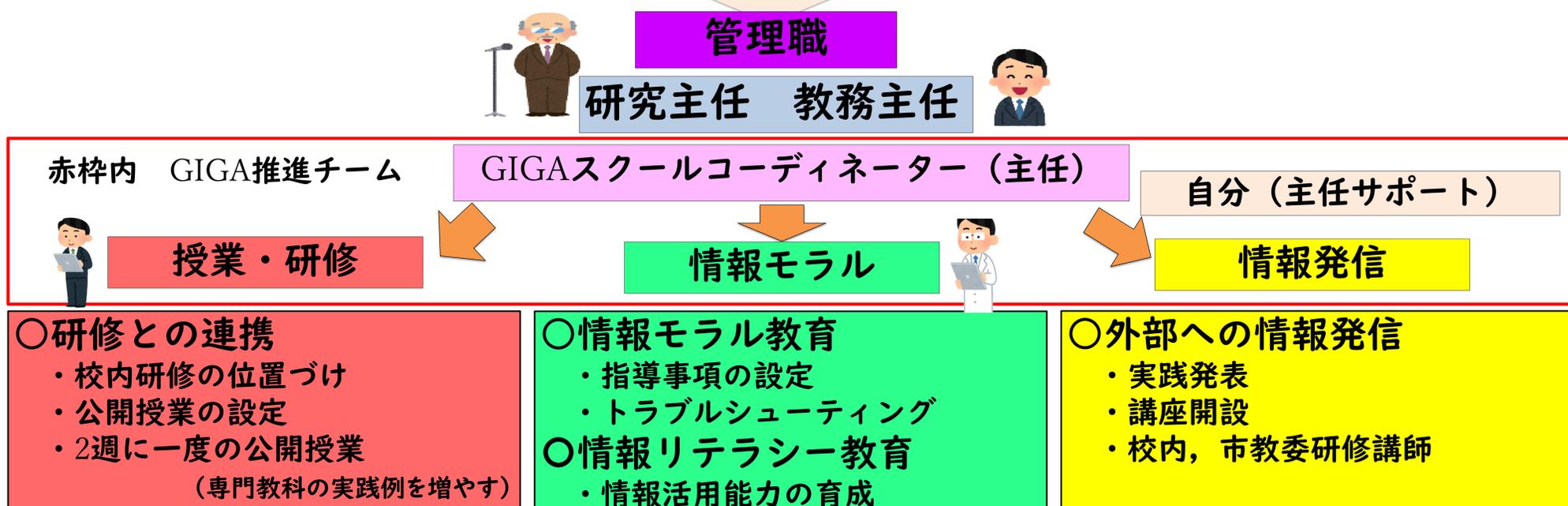
	①研究教科での活用	②研究教科以外の教科指導での活用	③学習以外の活用
ほぼ毎時間活用	7人	6人	8人
時々活用	8人	7人	6人
あまり活用しない	1人	3人	2人

表1 附属長岡小学校 職員の活用状況と意識調査 (対象:教諭16人)

タブレットを使わない職員の本音

- ◆ タブレットがなくても紙で代用できる。タブレットの操作する時間を考えると紙ベースで教材を扱う方がタイムロスが少ない。
- ◆ タブレットの操作が難しい。教材の作り方が分からない。
- ◆ 活用することで子供同士のトラブルも心配だ。
- ◆ 専門教科においても、タブレットを使うことなく学習を進めることができている。無理して活用する必要はあまりないのではないか。

校内の組織作りを行い、活用率をUP！タブレットを使える子供を！



GIGA推進チーム(情報部)を「授業・研修部門」「情報モラル部門」「情報発信部門」の3つのカテゴリーに分け、コーディネーターを中心に組織し、各カテゴリーでの計画をPDCAサイクルで実施し、校内のICT教育を推進

- ・校内活用率のアップ
- ・専門教科での実践の蓄積
- ・教科ごとの知見を得る

- ・月1回の情報モラル教育
- ・タイムリーな話題の共有
- ・トラブルの対応確認

- ・外部への活用発信
- ・各種研修会の講師
- ・ICTを活用した授業公開

次年度のもっとICT

- 教科ごとのコンテンツの作成 → 動画やアプリを活用しての教材
- 市教委との連携事業 (ICT講座の開設)

- 活用の幅を広げていく → 新たなICTの活用を！
- 活用方法を提案

今年度の成果

GIGA推進チーム(情報部)を「授業・研修部門」「情報モラル部門」「情報発信部門」の3つのカテゴリーに分けたことで、一極集中型から脱却。コーディネーターが中心となり、業務を円滑に進めることができるようにした結果と考える。

次年度の課題

校内での活用等の幅が広がってきている反面、教職員への負担が増えたように感じる。GIGA推進チームによる活動を通して、教職員の負担軽減と効率的な組織マネジメントの在り方について一層の追究を重ねていく。